

## 心が“満タン”に～2・3年生との腕相撲～

子どもたちが登校してきた朝8時過ぎ、私は可能な限り教室を回り、子どもたちと朝の挨拶を交わすようにしています。「おはようございます」と声をかけると、元気な挨拶が返ってきて、私の心も元気がチャージされる大事なひとときとなっています。

2・3年生（複式）の教室でのこと。子どもたちが腕相撲をしています。顔を覗かせ挨拶する私に気づいた子どもたち。「校長先生、一緒に腕相撲しよう！」と私に声をかけてきました。せっかくのお誘いです。「よし、やろう！」と、私も参加することにしました。

最初は、3年生と勝負です。「簡単に勝てるだろう」と思いきや、勝負が始まった途端、気が抜けないことに気づきます。「強いなあ・・・」と思わず口から出てしまいます。

教室にいた子どもたちと勝負し、やっとの思いで勝ったものの、どの子にも腕力があり、体力面からも子どもたちの成長を実感します。



その後、健康観察カードを持ってきた養護教諭にも、「やろう！」と声をかけた子どもたち。楽しそうに腕試しをしていました。

私も養護教諭も、短時間ではありましたが、楽しい時間を過ごせ、心が“満タン”になり、元気に一日を過ごすことができました。

## 「お話しなからの給食は楽しいです！」

### ～4・5・6年合同給食～

12時5分、給食時間になりました。4年生の教室では、4時間目の授業を終え、子どもたちが給食着に着替え始めています。

すると、6年生の子が、自身の教室から4年生の教室へと机を運んできて、「今日は、なかよし班で給食を食べるよ」と、4年生に伝えています。

10月に入り、4年生の担任が産休に入りました。そのタイミングで、4年生の教室を3階に移動。この機会を生かし、同じ3階の4・5・6年生が、ひとつの教室で、一緒に給食を食べることにしたのです。

4・5・6年生は、高学年として委員会やクラブを共にし、学校のリーダーとして何かとつながりも強くなってきます。＜食を共にする＞ことで、より絆も深まりやすくなります。

学年毎で準備した給食を運び入れ、4つのなかよし班（縦割り班）に分かれて机も配置しています。よく

見ると、班の中には2人しかいないところもあります。どうやら欠席児童がいるため、この日は2人になってしまったようです。その様子を見た他の班の子どもたちが、「こっち来る？」と誘い、2つの班が合体です。

みんなが揃い、「いただきます！」。この日の給食は、“ごはん・ごもくうどん・セルフとりめしの具”でした。私は子どもたちに、「4年生から6年生まで一緒に食べるのはどう？」と、尋ねてみました。どの子も「楽しいです！」と答えてくれます。いろんな友達と、給食を食べながらお話しすることが楽しいようで、話題は多岐に渡るようです。



給食をおいしそうに頬張っていた子どもたち。大人数での楽しい会話が隠し味となって、給食も一層おいしかったことでしょう。

## 実を実感して～稲刈り～

6月26日に5年生が植えた米の苗も、実りの季節を迎えました。

10月10日（金）、いよいよ稲刈りです。子どもたちは、勇み足で田に向かいます。田では、田を貸してくださっている山本さんが迎えてくださいました。

山本さんから、手刈りの仕方を教えてもらい、子どもたちは、稲刈り鎌を片手に、各自が刈りたい場所へ自由に行き、自分のペースで刈っていきます。腰をかかめ、鎌で稲の束をスッと切りながら、どんどん刈り進めます。どの子も手を休めず、広い田で育った稲を全て刈ろうと一生懸命です。



やっとのこと、全部刈ってしまいました。次は、掛け干しの準備で、稲の束をきつく縛っていく作業です。稲刈り作業で疲れたのか、座り込んで作業をする子もいます。ただ縛るだけですが、稲の束をきつく縛ることは難しく緩んでしまうこともあり、作業に時間がかかります。



そのうちに、この日の終了時刻がきてしまいました。田には、刈った稲がそのままたくさん置かれています。担任が子どもたちに、「残っている稲はどうしますか？」と尋ねます。すると、「（連休後の）火曜日にしたい」との返答。そこで、火曜日に作業をしてよいか、山本さんに子どもたち自身が直接交渉し、「大丈夫」とのお返事をいただくことができました。

作業はさすがに疲れたようで、体験を通して、手作業の大変さを実感した子どもたちです。

「将来米農家になりたい」と発言する子もいます。体験を通し、将来の夢描きも、より具体性が増したのではないかと思います。